

次期ロードマップの策定について

日本学術会議 科学者委員会
学術の大型研究計画検討分科会
委員長 相原博昭 殿

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会
学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会
主査 海部宣男
2016年7月12日

本「学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会」では、日本学術会議の学術の大型計画マスタープラン 2010 と連携した「ロードマップ 2010」の策定以来、マスタープランを基礎としつつ我が国の学術研究をリードする優れた大型研究計画を選定・公表し、透明性を確保しつつその積極的推進を図ってきたところです。

この連携は大きな具体的成果を生み、我が国の学術推進に広い分野を含む新たな流れを作り出していると評価されています。これまでの学術会議との連携に感謝するとともに、今後もさらなる改善や強化を図るべく、ご協力をお願いします。

選考評価の観点の見直しの方向性について

「学術の大型計画」の定義およびリストアップの基準については、マスタープラン 2010 に「大型施設計画」および「大規模研究計画」それぞれについて明記されており、ロードマップの策定においても基本的にそれを踏襲してきました。

今期作業部会では、既存計画のフォローアップと同時に、従来同様にマスタープランの学術的評価を踏まえつつロードマップ 2017 の策定にあたるべく、審議を進めています。ロードマップ 2017 の策定方針はマスタープランをお送りいただく前の年内に取りまとめる予定ですが、これまでの選考過程における問題や学術を取り巻く新たな状況も踏まえて、大型計画のさらなる明確化や選考評価の在り方についても検討を進めています。

つきましては、当作業部会で議論してきた上記方向性について、現時点での概略を以下にまとめました。重点計画選考の際の参考ともして頂ければ幸いです。

- ① 既存の「ロードマップ」における「評価」の観点（参考1）を基本とするが、以下の点を考慮し、さらなる明確化と補強を図る。
- ② 日本学術会議のマスタープラン2010・2011に明記された「大型施設計画」と「大規模研究計画」（本作業部会ロードマップ2012では、カテゴリAとカテゴリB）のリストアップ基準を基本として踏まえることを確認する。それに加え、両カテゴリについて、性格の違いに配慮した選考が重要であり、選考基準で新たに明確化する（ただし、両者は評価結果で総合的に選考し、別枠は設けないことはこれまで通りとする）。
- ③ 年次計画、予算計画、人員計画は大型計画の根幹でもあり、すべての提案においてこの3点の明示を求め、評価の対象ともすることを検討している。ただし、大型施設計画、大規模研究計画の性格の違いは考慮する。また進行中の同様な計画についても、必要に応じさらなる明確化を求めることを検討する。
- ④ 学術研究を取り巻く最近の状況を踏まえ、運用終了の時期をできる限り明確に計画に組み込むことを求めたい。また、当初計画の終了後も運用延長を計る場合や、運用開始後計画途上であっても国としての支援のやむを得ぬ縮小・終了があった場合に備えた経費調達の見通し等についても、説明を求めることを検討している。現在進行中の計画についての同様な要請も含め、これを評価に反映していく仕組みについても、今後検討する。

以上

マスタープラン・ロードマップの連携に関する要望

日本学術会議のマスタープランは、ロードマップ策定における学術的基盤であるため、今後進められる重点大型研究計画の策定に際して、以下の連携・協力をお願いしたい。

重点大型研究計画については、選考結果だけでなく、ヒアリング対象となった計画についても情報（研究計画書、ヒアリング時のプレゼン資料など）を提供していただけるか。これは、分野等を考慮した場合など、検討範囲を広げることが必要になることも考えられるため。

(参考1)

(ロードマップ2014における選考評価の視点)

【各観点における主な具体的視点】

- | | |
|--|--|
| <p>①研究者コミュニティの合意</p> <ul style="list-style-type: none">・研究者コミュニティの合意形成の状況はどうか。 <p>②計画の実施主体</p> <ul style="list-style-type: none">・多数の機関が参画する場合、責任体制と役割分担は明確になっているか。 <p>③共同利用体制</p> <ul style="list-style-type: none">・共同利用・共同研究の実施体制が確立されているか。幅広い大学の研究者が参画できるか。 <p>④計画の妥当性</p> <ul style="list-style-type: none">・計画の準備スケジュール・実施スケジュールが明確になっているか。実施可能なスケジュールとなっているか。・建設費及び運用費は妥当か。十分検討されているか。 | <p>⑤緊急性</p> <ul style="list-style-type: none">・国際的競争・協力において、我が国がリードするためには、早期に実施することが重要か。・早期に実施しないと、国際的に著しい不利を招くことになるか。・実施の遅れにより、人材の深刻な流出が危惧されることとなるか。 <p>⑥戦略性</p> <ul style="list-style-type: none">・当該分野での世界トップを確実にし、我が国の強みをさらに伸ばすこととなるか。・他分野への波及効果等はどうか。・国際貢献や国際的な頭脳循環につながるか。・将来的な我が国の成長・発展につながるか。・計画を実施しないことによる国の損失はどうか。 <p>⑦社会や国民の理解</p> <ul style="list-style-type: none">・社会や国民に必要性を説得力をもって説明できるか。・巨額の国費の投入について、社会や国民に支持していただけるか。 |
|--|--|

(参考2)

ロードマップ 2017 策定スケジュール

- | | |
|-------------|-------------------|
| ・平成28年12月 | ロードマップ策定方針の最終決定 |
| ・平成29年 1月 | ヒアリング対象の決定 |
| ・平成29年2月～4月 | ヒアリング実施 |
| ・平成29年5月 | ロードマップ2017策定(案)決定 |
| ・平成29年6月 | ロードマップ2017策定 公表 |